

精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議第2グループ議事摘録

日時：7月13日（月）10時00分～12時00分

場所：庁舎6階 委員会室

1 開会

2 町長挨拶

3 出席者の自己紹介

【出席者】 出席者から自己紹介。

4 事務局紹介

【事務局】 事務局メンバーの紹介及び有限責任監査法人トーマツの紹介。

5 資料説明

【事務局】 （仮称）精華町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定における基本的な考え方について、今回の総合戦略と精華町の総合計画との関係及び今後のスケジュールに関して説明。

【トーマツ】 精華町の人口基礎調査分析・アンケート調査結果を要約した形で説明。

【事務局】 シティプロモーション事業に関する説明。

6 ブレインストーミング（意見交換）

有限責任監査法人トーマツの堀井氏を座長代理として、意見交換。

【堀井氏】 精華町の町に関してどのように思うか。

【佐久間氏】 引っ越してきた際、有名な場所がないと最初は思ったが、歴史のない町というものはない。精華町にも視点を変えるとすばらしいところがたくさんある。ふるさと案内に参加される精華町民の方でも「なんとなしに見ていた風景がこんなにすばらしかったのか」とおっしゃる方も多い。

【山口氏】 平安京遷都1200年の記念事業の一つとして、京都府が破格の

お金を費やしてけいはんな記念公園は作られた。平米当たり 2 万円、森を除いたら平米当たり 5 万円ほどかかっている。全国でもトップ 10 に入る公園だと思う。そういう宝物が精華町にある。良い町には良い公園があり、良い美術館があり、良いホールがあり、良い道がある。こうしたものをきちんと PR していくと感動するものになってしまう。開発した場所だけを見るとニュータウンだが、周りにある緑を見れば全国でも有数。また、数字的な話も PR しても良いと思う。国土交通省が出していたと思うが、一人当たりの公園緑地面積というものがある。精華町の人口は 3 万人、けいはんな記念公園だけで 24 ヘクタールあるため、精華町住民一人当たり 8 平米、他にいろんな公園があるため 10 平米は超える。数字を見ても全国でも有数の環境といえる。

【堀井氏】 ソフト面、人とか人材とかに関してはどうか。

【森田氏】 それぞれの地域に資源は存在するが、何もしなくては資源の魅力は高まらない。地域の人たちや行政が魅力を高めていくために、仕掛けを行っていくことが大切。元気塾では資源を活かし、魅力を高めることを目指して活動している。ただ、そうしたことができる、引っ張っていく、巻き込んでいく人材が少ないのが現状。先頭に立ってやっていく人材作りのバックアップを行政に期待したい。

【堀井氏】 人を巻き込んでいくための仕組みや外部から見た精華町のよさについて、どう思うか。

【矢野氏】 外部から見た場合、「京都」というのが精華町のひとつのブランドで武器。特に若い女性でアニメや漫画が好きな方の中には歴史がブームとなっている。例えば、日本刀を見に行く女性が存在する。京都にあり、奈良にも近いため、女性には注目されることが可能だと思う。特にこのような趣味の女性には魅力的である。本人が楽しむのももちろんだが、ネットで情報発信して貰うのがネットの強み。まずは個人に満足してもらいながら、SNS を使用して PR につなげていくと良いと思う。

【堀井氏】 隣の町から見て、精華町に対して思うところを伺いたい。

【木戸氏】 木津川市に住んでいるが、精華町の施設も使用している。図書館は子どもたちも使用していた。子育て環境としてはすばらしいが、研究施設と教育が連携できていないように思う。子どもたちにとっては近くて遠い存在。また、シルバー人材センターはあるが、子育てでキャリアを一旦中断した女性の再就職をサポートするものがない。この地域は非常に優秀な女性人材が多い。高学歴ということもあり、出産年齢が遅くなる。そうした女性が子育てでひと段落しても、自分の能力を活かすところがない。優秀な女性人材が町内には埋もれている。無償ボランティアはあるが、子どもの教育にはお金が必要であり、そのお金を捻出しなければならないが、自分がしたいボランティア活動と収入がリンクしないジレンマを多くの人が持っている。そうしたジレンマが解消されれば、相当よくなると思う。教育でいえば、公立高校がすばらしく、優秀な子どもが多いエリアだと京都市内の高校では知られているが、そのことを住んでいる方は知らない。また、けいはんな自然公園というすばらしい自然を隣の町に住んでいるとうらやましく思う。自然に関わることによって、高校から大学になったときに応用が利く、幅の広い人間になるような気がする。そのため、自然と教育が絡むようなことがあれば親御さんも喜ぶ気がしている。

【森田氏】 学研の関係でいえば、昔、行政で仕事をしているとき、株式会社国際電気通信基礎技術研究所でロボットを活用し、何か行政の施策にいかせられないか、話をしに行ったことがある。その際に見せてもらったロボットは人を相手に話をするものだった。それを高齢者との触れ合いに使ってもらった。しかし、継続的な取り組みにならなかった。何を言いたいかという、せつかく、学研都市に先端の技術をもった研究所があるが、直接行政や地域との連携や関わりがほとんどない。直接地域と関わるような取り組みができれば、学研都市の魅力ももっと増していくと思う。学研都市の建設の当初から関わってきたが、学研都市ということを出している割には未だに関わりが少ない。行政がもっとサポートできればと、現役のときから退職してからもそのように考えている。

【佐久間氏】 学研都市の研究施設も対象として、ふるさと案内をしていこうとしているが、小さな研究所は開放的で見せていただけるが、大きなところは難しい。その辺りの橋渡しを行政に期待したい。そうしたことで精華町内外に情報発信をすることができると思う。

【堀井氏】 学研都市の研究都市の活用という意味でいえば、どのように考えるか。

【山口氏】 学研都市といえば、科学技術に目がいってしまうが、研究所の活用は、情報セキュリティの観点から職業柄、かなり閉鎖的だと思うので、難しいのではないか。中学生の職業案内も受け入れており、むしろよく協力してくれている方だと思う。一方で子育ての話が出たが、子育て環境をどうするか、少子化対策に関しては精華町がブランドを持つことができるポイントだと思う。科学技術だけではなく自然環境を大事にした上で、文化がキーポイントになると思う。木津川市は緑がほとんど残っておらず、精華町は桁が違うくらい緑が多いため、そういうものを活用した教育環境の整備がよいのではないか。また、関西文化学術研究都市という冠がついているが、幅広い意味で文化と捉えれば、子どもたちが魅力を感じる文化を育てる余地があると思う。科学技術に関しては研究所に頼ってはいつか壁にぶつかってしまうと思う。むしろ子どもたちにとって大事なインフラである自然環境、文化体験というようなものをもう少し取り上げてよいと思う。その仕組みづくりをもう少し考えてもよいと思う。先日、うちの公園で自然とか文化とかのプログラムができるアルバイトを募集すると、木戸さんがおっしゃったように子育てがひと段落した多くの女性が集まった。その方たちもボランティアではなくてお金が欲しい。ボランティアができるのは安定した収入があるから集中できるわけで、多くの方は余裕がない。そうした人を活用できる仕組みをすれば面白いことになると思う。私が知っている例を紹介させてもらおうと、アメリカのある日本庭園では、会員を年に1万円で募集したところ、8,000人もの会員が集まった。そして、それを基にボランティアではなくスタッフを雇って環境整備を行っている。

日本で制度上できるかどうか分からないが。

【堀井氏】 子育てが終わったあとの女性が活躍できる場という面でいえばどうか。

【木戸氏】 キャリアを絶って子育てをした女性は、子どもと家庭を中心にして働きたいという方が多いため、どうしても通勤がしやすい奈良市で働くということになる。働く場所が精華町内にあればということはない。有償ボランティアのようなものがあればさらに良いのではないか。PTAの会長をしていたが、精華町の高校生の親を見ていると、仕事をしている女性の割合やひとり親の割合が低い。自己実現をしたいと考えている女性が多いと思う。教育環境がすばらしく、女性の自己実現にも可能であれば、人口が流入し、さらに魅力の高いまちになるのではないか。

【堀井氏】 女性の人材活用、学研都市を活かしたまちづくり、自然の魅力を活かしたまちづくりという話が出たが、これらの中で具体的なアイデアがあればご意見を伺いたい。

【佐久間氏】 ふるさと案内のPRというか活動方針になるが、有償化で考えていることがある。山城広域振興局が企画している、京都ちーたび100選というものがある。色んな店や施設とコラボして、全国的に発信し、こういう食事をしませんか、こういうお菓子を食べませんか、このようなすばらしい場所に行って一緒に説明しますよ、という活動をしようと考えている。具体的には、けいはんなプラザのレストランの薬膳料理を食べ、けいはんな記念公園の北側にある湿地帯を案内するといった旅を企画しようと思っている。

【堀井氏】 今までの話を聞いた上で、こんなことをやればよいのではと考えるものはあるか。

【矢野氏】 他の地域でいえば、美味しいものを食べながら、マラソンをするといったことも聞いたことがある。神戸でいえば、神戸の町中の色々な名所を走って地元を再発見する取組をしている。サブカルチャーという視点でいうと、コスプレを楽しむという

ことが若年層から中年層まで定着してきている。侍や忍者の格好のコスプレをして神社仏閣の庭でキャラクターになりきって写真を撮るといったことはどうか。特に、ここでしかできないという場所で精華町でしかできないサブカルチャー体験をしてみると、PR 次第では全国に広がるのではないか。また、精華町を離れた方にも一緒に情報発信を手伝ってもらうことも大事だと思う。

【堀井氏】 精華町から出て行った方に協力を得るのは具体的にはどのようにすればよいか。

【矢野氏】 京町セイカちゃんを上手に使いながら、応援してもらおうとよいのではないか。精華町を離れた方にも京町セイカちゃんをアピールしていくことで、その人から周りに情報発信をしてもらうことで PR に繋がると思う。

【堀井氏】 コスプレの話は佐久間委員の話にも繋がるのではないか。

【佐久間氏】 今まで考えたことがなかったが、検討していきたい。健康という視点も大事だと考えており、今後は精華 365 とコラボして案内していこうと考えている。

【堀井氏】 女性の人材活用という視点で、女性を上手に取り組んでいくためアイデアとして意見はないか。

【山口氏】 精華町は子育てをブランド化できると思う。子育て中の女性でも活躍できるソフトがないか考えている。ハードはもう存在している。子どもたちがきれいに管理された森で遊びまわることができる教育環境を提供するという企画を秋くらいから実施していくつもり。これに関して、女性の活用につなげていきたいと考えている。また、広場で朝から晩まで子どもたちが遊んでいるが、戦前は公園に子どもを見守る専門の大人がいた。そうした見守ってくれる人がいる公園であったら、母親は安心だと思う。けいはんな公園が良いのは管理する人がいるから安心だ、とおっしゃる方もいる。これに関しても女性を活用できると考えている。人がいることが安心に繋がる。ただ、これに関

しては仕組みをどうしていくかを検討している段階。

【森田氏】 今後、介護度の低いサービスの主体が国から市町村に移る。高齢者を地域で支えるということが大事であり、女性に担ってもらい地域で支えるという流れになるのではないか。そうしたことで女性の活用を進めていくことができればよいのではないか。

【堀井氏】 今までの話を聞いた上での女性活用に関する意見を伺いたい。

【木戸氏】 優秀な教養の高い、高学歴な外国人女性が非常に多い。お金は入らないけど、女性の自己実現に繋がる何かはできるのではないか。そうしたことができる場ができるとうすばらしい町になると思う。私の体験で言えば、文化的なところに行った際、自分とその女性で（同じものを見ているにも関わらず）見たものへの認識や感想が大きく異なったり、ギャップがあったりすることが楽しかった。ソフト面でいえば、こうした女性を活用できるのではないか。

【堀井氏】 今までの議論を踏まえて、考えたことや言えなかったことはあるか。

【山口氏】 経済的なことを考えた方がよいと思う。有償ボランティアとして、交通費・弁当代を支払うだけではなく、ある程度お金を提供しなければならないと思う。お金の確保の仕方は考えないといけない。

【森田氏】 国の言うとおりにやっても結果は出ない。田が荒れると地域は崩壊する。農家の後継者不足への対策、直売所や道の駅といった、農業に関する精華町独自の取り組みをしていかないといけない。また、その取り組みに関して総合戦略に入れて欲しい。

【堀井氏】 これでブレインストーミングを終了する。

7 事務連絡

【事務局】 次回は8月のお盆前後に開催予定している。

8 閉会

以上